

都市再生整備計画 事後評価シート  
あやめ池北地区

平成24年3月

奈良県 奈良市

様式2-1 評価結果のまとめ

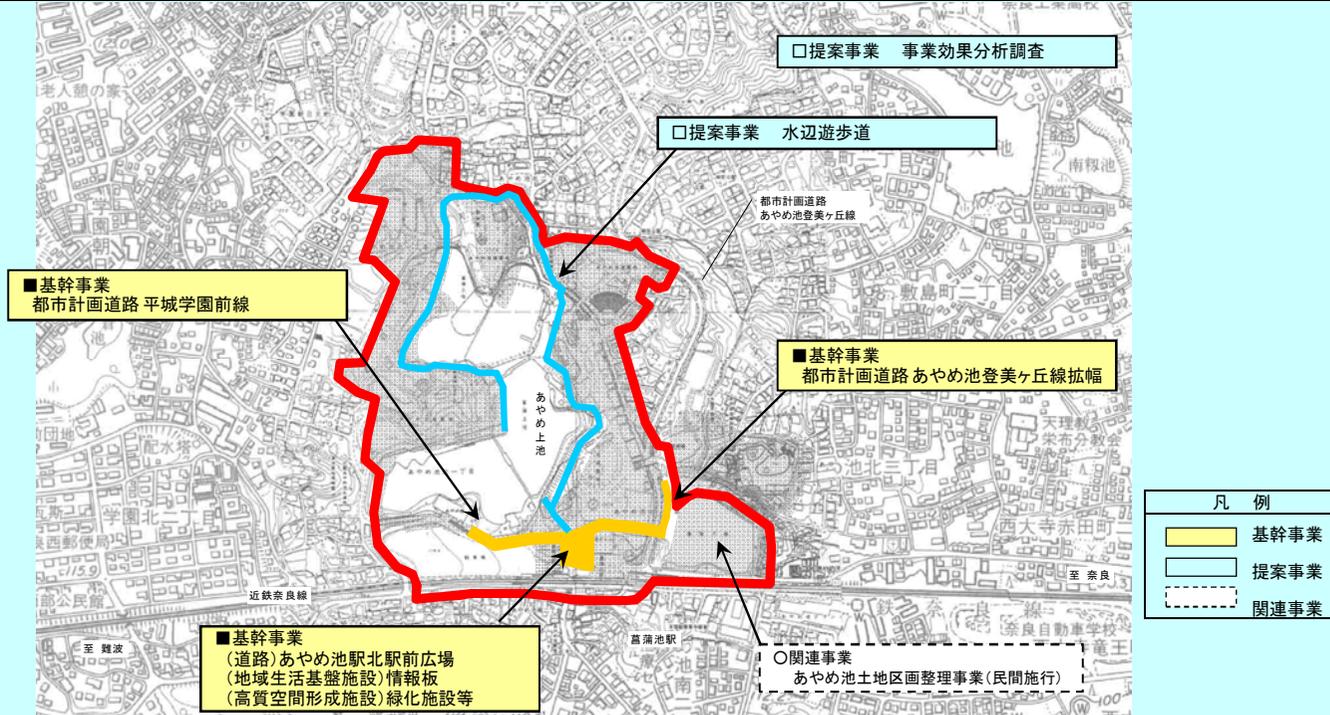
金額: 百万円

都道府県名	奈良県		市町村名	奈良市		地区名	あやめ池北地区			面積	27.2ha		
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,075.0	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(都市計画道路平城学園前線整備、あやめ池駅北駅前広場整備、都市計画道路あやめ池登ヶヶ丘線拡幅整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(水辺遊歩道)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	該当なし										
		提案事業	事業活用調査(居住者・来街者アンケート調査)			「事業効果分析調査」の一部に本調査を移行したため。			整備効果の測定調査のため影響該当なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	・高質空間形成施設(あやめ池駅北駅前広場) ・地域生活基盤施設(あやめ池駅北駅前広場)			「あやめ池駅北駅前広場整備」の一部を本事業に移行したため。			整備効果の測定調査のため影響該当なし				
提案事業		事業活用調査(事業効果分析調査)			事業活用調査(居住者・来街者アンケート調査)を事業活用調査(事業効果分析調査)に名称変更し、調査内容は当初のアンケート調査に、水辺遊歩道の歩行者調査を追加した。			整備効果の測定調査のため影響該当なし					
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	該当なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	駅乗降客数(目標1)	人	11,408	H17	12,500	H23	/	12,665	○	あり -	駅乗降客に関しては、整備前に減少傾向にあったものが、本事業により、駅前周辺の利便性が向上し、H22年度から増加に転じた。評価値としたH23年度は12,665人となり、目標であった12,500人を超えることができた。	/
	指標2	遊歩道通行者数(目標2)	人	0	H18	300	H23	/	780	○	あり -	本事業により、あやめ池への親水性が向上し、利用者が増加した。目標値を超える歩行者があり、指標1と合わせ集客効果は認められる。	/
指標3	市民満足度(まちの魅力・うるおい、暮らしやすさなど)(目標1及び2)	%	10	H18	20	H23	/	64.5	○	あり -	地域住民の満足度は当初の10%から64.5%と、大幅に増加した。整備により住民にも生活環境が実感できる整備であったと判断できる。	/	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
その他の数値指標1	あやめ池駅北駅前広場の満足度	%	-	-	/	/	/	68.6	/	/	全体的には68.6%の満足度で、本事業で整備したあやめ池駅北駅前広場は市民に好評価されている。特に、ロータリーの広さ、乗降場や緑の配置については、80%を超える人々が整備の効果を意識した。しかし、夜間照明や案内看板については、他の項目より評価が低かった。	/	
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	該当なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	該当なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	該当なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

## 様式2-2 地区の概要

### あやめ池北地区(奈良県 奈良市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:あやめ池固有の豊かな水と緑を継承・活用した、生活にうるおいとやすらぎをもたらすまちづくり 目標1 駅前機能の充実により市民の利便性と安全性を高めるまち 目標2 水辺と緑を楽しみながら誰もが快適に歩いて暮らせるまち	駅乗降客数(目標1)	単位:人	11,408	H17	12,500	H23	12,665	H23
	遊歩道通行者数(目標2)	単位:人	0	—	300	H23	780	H23
	市民満足度(まちの魅力・うるおい、暮らしやすさなど)(目標1及び2)	単位:%	10	H18	20	H23	64.5	H23



まちの課題の変化	<p>○利便性及び安全性の向上:当該事業により市民の満足度が10%から64.5%に向上したことから、利便性や安全性などについては、概ね確保されたと考えられる。しかしながら、駅周辺が活性化するに伴い、これまで潜在的であった以下の2つの問題が顕在化した。</p> <p>(i)地下通路が階段による昇降のため移動制約者(身体障がい者、高齢者等)にとっては、この階段が南北の移動の障害となっている。</p> <p>(ii)踏切が狭隘で、歩行者と車が輻輳しており、安全性を確保する必要がある。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>○近鉄奈良線で分断されている南北間の移動に伴う利便性、安全性を向上させ、なお一層の安心・安全なまちづくりに取り組む。</p> <p>(i)近鉄奈良線を横断する地下通路の南側エレベータの設置。</p> <p>(ii)踏切道の拡幅による歩車分離。</p>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	該当なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	平城学園前線	853	L=340m,W=16m	580.1	L=300m、W=16m	事業の確定と事業費の精査により、変更をした。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
道路	あやめ池駅北駅前広場	331	A=2,100㎡	232.5	A=2,100㎡	一部の事業を「地域生活基盤施設」「高質空間形成施設」に移行したため事業費の見直しをした。	事業規模の変更があったが、事業の移行に伴うもので、整備内容は変わらないため、変更等は生じなかった。	●	
道路	あやめ池登美ヶ丘線拡幅	51	A=300㎡	33.0	A=275㎡	事業の確定と事業費の精査により、変更をした。	影響は軽微なため、変更等は生じなかった。	●	
地域生活基盤施設	あやめ池駅北駅前広場(情報板)	-	該当なし	2.8	あやめ池駅北駅前広場:1箇所	「あやめ池駅北駅前広場」の事業の一部を移行したため。	事業を追加したが、当初計画では道路「あやめ池駅北駅前広場」に含まれていた事業のため、影響はなく、変更等は生じなかった。	●	
高質空間形成施設	あやめ池駅北駅前広場((植栽・緑化施設、せせらぎ・カスケード、カラー舗装・石畳、照明施設、ストリートファニチャー・モニュメント等)	-	該当なし	60.3	ラインシェルター:1箇所 ベンチ:6箇所 モニュメント:2箇所 サイン:5箇所	「あやめ池駅北駅前広場」の事業の一部を移行したため。	事業を追加したが、当初計画では道路「あやめ池駅北駅前広場」に含まれていた事業のため、影響はなく、変更等は生じなかった。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	水辺遊歩道	169	A=8,500㎡	164.3	A=5,500㎡	事業費の精査と一部の事業を別事業(区画整理事業)に移行したため。	当初計画の一部の事業が別事業で実施される。地区の整備内容としては変化しないため、目標等の変更は生じなかった。	●	
事業活用調査	居住者・来街者アンケート調査	21	市民及び来街者を対象とした、満足度アンケート調査	—	該当なし	「事業効果分析調査」に移行したため削除。	整備効果を計測するための調査のため、目標等へは影響該当なし	—	
	事業効果分析調査	—	該当なし	2	市民及び来街者を対象とした、満足度アンケート調査及び、水辺遊歩道の歩行者交通量調査	当初計画の内容に歩行者交通量調査追加したため。	整備効果を計測するための調査のため、目標等へは影響該当なし	●	
まちづくり 活動推進事業	該当なし								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
道路(幹線街路)		平城学園前線	366	—	平成20年度～平成21年度	—	あやめ池土地区画整理事業に移行。	
あやめ池土地区画整理事業		あやめ池	—	3,534	—	平成19年度～平成22年度	平成21年3月(変更第1回)で追加。上記の道路(幹線街路)事業も含めて実施した。H22年度に完成し、当該地区の利便性が向上した。	民間施工

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	人	平成23年9月28日にあやめ池において計測された駅乗降客数を評価値(確定値)とした。	-	-	11,408	H17	12,500	H23	モニタリング		モニタリング		-	
									事後評価	確定 ● 見込み	12,665	事後評価		
指標2	人	平成23年6月29日の昼間12時間(7:00~19:00)に遊歩道に調査員を配置し、カウンタで実測し、これを評価値(確定値)とした。	-	-	0	H18	300	H23	モニタリング		モニタリング		-	
									事後評価	確定 ● 見込み	780	事後評価		
指標3	%	平成23年7月に郵送アンケート調査(有効回答数:509票)を実施し、その結果を評価基準日の評価値(確定値)とした。なお、「市民満足度」はアンケートの中にある4つの設問に対する満足度の平均値。	-	-	10	H18	20	H23	モニタリング		モニタリング		-	
									事後評価	確定 ● 見込み	64.5	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	本事業による施設整備により交通結節点としての機能が向上し、駅乗降客数は平成22年度より増加傾向に転じた。平成23年度では、12,665人と目標値(12,500人)を超える結果を得た。これより、目標は達成できたと判断した。	-
指標2	施設整備の効果により、H23年6月の調査で目標値(300人/日)の2倍を超える780人/日を観測し、この状況は年度末においても変わる要因が少ないことから、目標値は達成されたと判断した。	-
指標3	施設整備の効果は、地域住民に認識され、その評価も良好であることから、目標値を達成することができた。	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	%	平成23年7月に現地で実施した 街頭アンケート調査(有効回答 数:200票:うち、あやめ池駅北 駅前広場の利用者174票)の結 果を評価基準日の評価値(確定 値)とする。	-		-	-	モニタリング			基幹事業のうち、新しく整備さ れた駅周辺の整備効果を把握 するため。	街頭アンケートの中にある6つ の設問に対する肯定的意見 の平均値。
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

該当なし
------

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
該当なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
該当なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
該当なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会議)	関係課の係長級以上職員(都市計画課、総合政策課、財政課、交通政策課、道路建設課、街路課)	平成23年8月29日	都市整備部 都市計画室 都市計画課
全庁的な意見の照会	庁内の上記以外の各課	平成23年9月9日～14日	都市整備部 都市計画室 都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他指標1	
指標名		駅乗降客数		歩行者通行者数		市民満足度		あやめ池駅北駅前広場の満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:平城学園前線	○	駅乗降客に関しては、整備前に減少傾向にあったものが、本事業により、駅前周辺の利便性が向上し、H22年度から増加に転じた。評価値としたH23年度は12,665人となり、目標であった12,500人を超えることができた。	—	本事業により、あやめ池への親水性が向上し、利用者が増加した。目標値を超える歩行者があり、指標1と合わせ集客効果は認められる。	○	地域住民の満足度は当初の10%から64.5%と、大幅に増加した。整備により住民にも生活環境が実感できる整備であったと判断できる。	—	全体的には68.6%の満足度で、本事業で整備したあやめ池駅北駅前広場は市民に好評価されている。特に、ロータリーの広さ、乗降場や緑の配置については、80%を超える人々が整備の効果を意識した。しかし、夜間照明や案内看板については、他の項目より評価が低かった。
	道路:あやめ池駅北駅前広場	○		○					
	道路:あやめ池登美ヶ丘線拡幅	○		—		○			
	地域生活基盤施設:あやめ池駅北駅前広場(情報板)	—		○					
	高質空間形成施設:あやめ池駅北駅前広場(緑化施設等)	—		○					
提案事業	地域創造支援事業:水辺遊歩道	○	○	○					
	事業活用調査:事業効果分析調査	—	—	—					
関連事業	あやめ池土地区画整理事業 あやめ池	○	○	○					

※指標改善への貢献度

- :事業が効果を発揮し、指標の改善に貢献した。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	その他指標1
	今後も地区の地域核の一端を担う施設として、施設の機能維持と美化に努める。	住民の満足度が減少し、利用者が減少しないように、施設の維持管理を実施する。	住民の満足度が減少しないように、施設の維持管理を実施する。さらなる利便性の改善のため、近鉄奈良線による南北の分断に対して、弱者へ配慮した動線を強化する。	住民の満足度が減少しないように、施設の維持管理を実施する。案内看板については、他の項目より評価が低かったため、まちづくりに対応した表示となるよう再検討する。

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会議)	関係課の係長級以上職員(都市計画課、総合政策課、財政課、交通政策課、道路建設課、街路課)	平成23年8月29日	都市整備部 都市計画室 都市計画課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域・都市活力の向上に資する土地の有効活用	道路等の社会資本の整備により、居住空間としての生活環境が向上し、住宅地として土地の有効な活用は促進されている。	—	現在、あやめ池駅周辺は、近鉄奈良線により、南北に分断されている状態にあり、南北の移動は、地下通路と狭隘な踏切の横断の2つしか移動経路が確保されていない。このことにより以前から以下の2点が問題視されていた。 ①地下通路が階段による昇降のため移動制約者(身体障がい者、高齢者等)にとっては、この階段が南北の移動の障害となっている。 ②踏切が狭隘で、歩行者と車が共有して利用するため、歩行者の安全性を確保する必要がある。
地域核(地域生活拠点機能)としての形成	基盤整備により新たな施設(店舗等)が駅周辺に誘致され、地域核として形成されつつある。	—	本事業の整備により、駅の利用者や南北の移動者が増加したため、これまで潜在的であった上記の2つの問題が顕在化し、この問題の解決が重要性を増してきた。
利便性及び安全性の確保と地区ポテンシャルの向上	当該事業により市民の満足度が10%から64.5%に向上したことから、概ね利便性や安全性などは確保されたと考えられる。	—	また、本事業で整備した案内看板や夜間照明等、整備したにも関わらず、利用者の評価が低かった事項については、整備の在り方について再検討する必要がある。
水辺のオープンスペースへのアクセス性の確保	当該事業により、水辺へのアクセス性が向上した。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	整備した施設の維持管理	整備した施設を適切な維持管理を実施し、整備直後の状況を持続させる。	地域住民との協働による維持管理体制の構築 地域の維持管理活動に対する支援制度の構築 道路の清掃作業
	モビリティコントロール(自家用車から電車利用へ)による公共交通の利用の促進	電車利用を促進させ、地球温暖化問題の緩和策として貢献するとともに、地域核の形成を促進させる。	環境問題の地域住民への啓発(環境問題による公共交通利用の促進)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	線路で分断された南北方向の移動性の向上	移動制約者(高齢者、身体障がい者、妊婦等)に対して、移動の障害を取り除く。	近鉄奈良線を横断する地下通路の南側エレベータ設置踏切の拡幅による歩車分離

フォローアップ又は次期計画等において  
実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定 ●	見込み ○		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	駅乗降客数(目標1)	人	11,408	H17	12,500	H23	確定 ●	12,665	○	あり	—			
指標2	遊歩道通行者数(目標2)	人	0	H18	300	H23	確定 ●	780	○	あり	—			
指標3	市民満足度(まちの魅力・うるおい、暮らしやすさなど)(目標1及び2)	%	10	H18	20	H23	確定 ●	64.5	○	あり	—			
その他の数値指標1	利用者意向調査(あやめ池駅北駅前広場の満足度)	%	—	—			確定 ●	68.6						

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・数値目標については、3つの指標について達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値の設定に関しては、努力すれば達成できる程度の、適度な値を設定すべきである。</li> <li>・整備に関する指標を市民の意識調査で計測する場合には、整備がなされた状況を被験者に理解させたうえで質問に答えさせるように工夫する必要がある(被験者に整備状況が正しく認識されない意識調査では、調査結果がバイアスを受ける)。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者通行者数、市民満足度については目標値の2倍以上となる評価値となり、目標値が過小であった。</li> <li>・「その他の指標(菖蒲池駅北駅前広場の満足度)」では、当該の駅前広場の利用者への街頭アンケートを実施したが、「夜間照明」の設問は、夜間に利用したことのない市民にとって評価がしづらかった可能性がある。</li> </ul>	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・今回設定した指標は、事業内容との関係が明確であるので、事業の効果を分かりやすく示すことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標設定においては、事後評価の実施を考慮し、事業による効果が発現しやすい指標(事業から直接的に影響を受ける指標)を設定するとともに、事前のデータ(実測値)等の有無についても把握することが重要である。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング等で中間時点における整備効果を把握し、その状況に応じて目標値を修正することが肝要である。また、こうすることで目標に達しない場合の原因追求とその対策が可能となると考えられる。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	PDCAサイクルでの評価をすることができなかった。	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

### 添付様式6—参考記述 今後、社会資本総合整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- (i)近鉄奈良線を横断する地下通路の南側エレベータの設置。
- (ii)踏切道の拡幅による歩車分離。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	平成23年10月3日～11月2日	平成23年10月3日～11月2日	担当課への持参・郵送・FAX・Eメールにより受け付ける。	都市整備部 都市計画室 都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市報に閲覧方法、公表期間、意見の受付方法等を掲載し、市民への周知を図った。	市報(奈良しみんだより)10月号	市報での周知のみのため、該当なし		
説明会・ワークショップ	該当なし	該当なし	該当なし		
その他	市役所(都市計画課、文書法制課)、各出張所、各連絡所、各行政センターで閲覧できるようにする。	平成23年10月3日～11月2日	平成23年10月3日～11月2日		

住民の意見	<p>住民から寄せられた意見を以下に示す。</p> <p>(1)あやめ池遊園地跡地利用検討委員会(H18/4)策定のコンセプトが、将に実現された事を高く評価する。</p> <p>(2)当整備計画について、あやめ池地区住民の全般的な評価は高く、あやめ池の“ブランドイメージ”が良くなった。反面、近鉄軌道敷きを挟んで、南北の住民に、(まちづくりに対する意識の)温度差が出来たことも事実である。</p> <p>・歩道の距離表示や防犯灯のある遊歩道の設置など評価は高い。自治会による夜間パトロールも安心である。</p> <p>(3)まちの課題の変化については、事業前から地域要望として「包括的な課題」であった。住民説明会でも意見があったところである。</p> <p>(4)今後のまちづくり方策について、あやめ池駅南周辺整備事業として、(様式2-2の「まちの課題の変化」の)(i)は平成18年度から「地域重点要望」の第一に上げており、エレベータに拘らない。むしろ鉄道乗降客 約10,500人/日から見れば、地下道を広げ、エスカレータが望ましい。(様式2-2の「まちの課題の変化」の)(ii)についても“歩行者動線確保”として道路建設課に再度要望しているところである。</p> <p>(5)中水(雨水)の利用等による省エネタウンの実現を目指してほしい。</p> <p>(6)跡地の活用としては評価できる整備だったと思われる。ただ、やはりネックは近鉄線で南北の往来をもっと視野に入れるべき。</p>
-------	--

## (6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

### 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆同志社大学名誉教授 杉江 雅彦(委員長)</li> <li>◆奈良女子大学教授 今井 範子(副委員長)</li> <li>◆奈良女子大学大学院教授 中山 徹</li> </ul>	1回目 平成23年11月9日(水)  2回目 平成23年11月16日(水)	都市整備部 都市計画室 都市計画課	「奈良市都市再生整備計画評価委員会設置要領」による	都市整備部 都市計画室 都市計画課

審議事項	委員会の意見 :【 】書きは委員からの意見以外の特記。“－”は該当なし。	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	【方法書の内容と、その内容に基づいて事後評価を実施したことを報告した】
	成果の評価	①指標2(遊歩道通行者数)の評価値は、特定の日の観察データのため、評価値を取得した際の時期や条件を明記する。 ②「その他の数値指標」の評価結果にある満足度「68.6%」の算出根拠(6つの項目の平均値であること)を明示する。
	実施過程の評価	－
	効果発現要因の整理	○「指標改善への貢献度」について、評価基準を明確にし、考え方に一貫性を持たせたうえで評価をすること。
	事後評価原案の公表の妥当性	【事後評価原案の公表内容及び市民から寄せられた意見、及びその対応について報告した】
	その他	－
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	【全委員で妥当性について確認した】
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	○「今後のまちづくり」に記載されている2つの方策については、例えば「安全・安心のまちづくり」とし、その具体策として、現在記載されている2つの方策を記述することで、より方向性が明確になる。
	フォローアップ	－
	その他	－
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	【全委員で妥当性について確認した】
その他	①あやめ池北地区だけではなく、近鉄線の南側も含めたまちづくりが望まれる。 ②まちづくりに関して、近鉄電車側の積極的な関与を要望する。	

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、都市再生整備計画評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
該当なし	該当なし	該当なし

有識者の意見	該当なし
--------	------